

## 日本水フォーラム（JWF）設立趣意書

水は、あらゆる生命の源です。水は古来、あらゆる人間活動を支え続けてきました。そして今や水は、基本的人権の根幹をなすものという認識が世界中に広がってきています。

しかしながら、産業革命以降の人口爆発と自然を収奪する形での人間活動の飛躍的拡大の中で、水循環は自然の枠組みを大きく超え、その結果水に関わる様々な問題が顕在化、深刻化してきています。

世界では11億人が安全な水を飲むことができず、24億人は基本的な衛生設備が利用できない劣悪な水環境におかれています。また、水不足や水質汚濁などの問題については、「環境」という観点からその保全策が模索されている一方で、今後更に増加が予想される世界の人口に対する食糧の安全保障の問題に対する懸念も叫ばれています。このため、水問題を解決し、人間活動を持続可能なものにするためには、様々な分野間、ステークホルダー間の対話による多面的かつ包括的なアプローチが重要であるとの認識が高まってきています。

このような状況の中で、世界の水問題の解決に向けた具体的な「行動」に焦点を当てた第3回世界水フォーラムが、183の国と地域から24,000人を超える参加者を得て、2003年3月16日から23日までの8日間、琵琶湖・淀川流域で開催され、あらゆるステークホルダーの参加による新しい行動の実現に向けて世界が動き出しました。

開催国である日本が今回の水フォーラムを通じて学んだことの一つは、途上国が抱える水問題の多くが、かつての日本が40年、50年前に経験したものであるにもかかわらず、その失敗や失敗を乗り越えた教訓を十分に伝えてこなかったゆえに、世界各地で同じような過ちが今もなお繰り返されていることでした。また、命の源である水を将来の世代に間違いなく引き継ぐためには、水に関する基本理念を人類で共有することが重要との認識を深めることにもなりました。

水に対して、我々人類がいかに接するべきか。これまでの経験や知見を集約し、基本理念を確立、共有することによって、我が国が国内外の水問題の解決に貢献することが何よりも肝要であります。その実現を目指し、日本水フォーラムの設立を呼びかけます。

平成16年5月